

1 授業者反省

- 自分の考えを発表できなかった子どもへの対応が不十分だった。
- 学習のしつけができていなかった。
- TTの授業としての進め方等について意見を聞きたい。
- ポストテストを見ると、大部分できていたが、数名の子どもたちが $180^\circ + \square$, $360^\circ - \square$ の考えを理解できていなかった。

2 質疑・応答

- Q1 ; 測り方を発表する際、発表カードの提示の仕方に意図があったかどうか。
A1 ; 測り方の多そうなものから提示していった。(簡単なものから)

- Q2 ; 前時で、分度器を使った角の測り方がどの程度定着していたか。
A2 ; 6~7割、宿題等で定着を図るようにした。

- Q3 ; 角を計算で表すことにどの程度意図があったのか。
式に「 $^\circ$ 」を付けさせるのか否か。(つけたり、付けなかったりしていた)
佐々先生より~計算がメインであれば単位は付けなくても良いが、今回の場合は考え方を式で表すことがメインであるため「 $^\circ$ 」をつけてもいいのではないか。

- Q4 ; ノートやポストテストを授業の中でどのように活用しているのか。(どのように位置づけているのか)


- Q5 ; なぜ、今日はワークシートだったのか。
A5 ; 今日は、全員に同じ角度を与えなければならなかった。

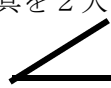
- Q6 ; 30° , 60° , 90° の角の子どもたちの認識はどの程度?
A6 ; 何度も復習しているが、なかなか認識できない子どもがおり、定着していない。

- Q7 ; 子どもたちの座席に偏りがあったのでは?
A7 ; 前方の左右同じぐらいに、配慮の必要な子どもを意図的に座らせた。
(ペアでできていないところがあった)

Q 9 ; 角の開き具合について、子どもたちに測らせる際、どのようなくふうをされたか。

A 9 ; 口の開き方を提示して、「大きさ」と「開き具合」との違いを示した。

 このような教具を2人に1組与えた。

Q 10 ; N 先生の方で、 30° は、子どもたちはどこで学んだか。

A 10 ; 前時までに確認済み

3 研究討議

(1) T T 指導の在り方 (T 1, T 2 との関わり)

< N 先生 >

- 個別指導を中心に
- 「深める段階で考え方をたくさん出して、子どもの考えを広げるのが T 2 の役割

< T 先生 >

- T 2 として、短時間の中で細かい指導が多くの子どもたちにされていた。
- N 先生の方法について「めんどくさい」とつぶやいた子を取り上げると良かった。
- N 先生のを、もっと細かくすれば良かったのでは (見ただけで面倒なことがわかるように)

< I 先生 >

- もっと、N 先生の方で、子どもたちに揺さぶりをかけた方が良かったのでは。

(2) 考え方の検討・比較について

< K 先生 >

- 多様な考えを引き出すのはとても良いのだが、すべてを取り上げるのではなく、その中でもよりよい考え方にしぼっていくことが必要ではないか。

< T 先生 >

- 7 の活動で、自分で簡単な方法で測る際、子どもたちは理由を付けて発表していたので、子どもたちなりに考えを絞っていた。

< 教頭先生 >

- 測るときに、加法と減法の考えが出ていた。

4 指導助言

今日のポイント→「多様な考えをまとめよう」

そのためには、多様な考えを引き出す。出ないときにはT2が考えを出して子どもの考えを広げる。

→ どうまとめるか。



- ① 一般性はあるか？（いつでも使える方法かどうか。を強調すべき）
- ② 統合可能性（見た目が違うけど、方法は同じものはどれかということを確認する。）
- ③ 効率化（1回測ればよい。線を引かなくても良い。）

※ ①～③を行うことで、多様な考えはまとめられていく。

※ 今日の授業で、あと5分あれば、まとめが充実したのでは？

※ 担任の先生が子どものことをよく分かって授業をしているのが伝わった。
（最後のまさのぶ君の発表を大事にしたことなど）

< K先生から >

TT指導で、個別指導を何度も行うと嫌がる児童もいる。対応が難しい。

< 指導者の先生より >

※ 子どもによって対応を変える必要がある時もある。

※ 子どもがどんな思考をするのか、教師側が予想しておくことが必要。

※ しゃべりすぎてしまう場合は、「ヒントカード」を使って個別指導に当たると良い。

※ TTとは、一人でできないことを2人でするということ。

5 校長先生より

- 一人一人に「分かる、できる、楽しい」という喜びを味わわせることが必要。
- 教師の考えよりも、子どもの方が多様な考えが出てくる。
- 「時間」にあせらずに、じっくり考えさせ、喜びを味わわせたい。